

第一期 赤松政経塾

赤松政経塾第一期修了式

8月2日、赤松政経塾、第一期の修了式が行われた。54名の参加者のうち、23名が晴れて修了証を手にし、塾長の赤松良子さんより激励の言葉が語られた。

▼超党派の国会議員・経済人・文化人等が講義

	第一講義	第二講義
第6回 4/12	テーマ： 「小さいけど肝っ玉」 女性議員の育て方 講師：小宮山泰子さん 民主党 衆議院議員	テーマ： 「世界に羽ばたくために」 今、日本に必要なこと 講師：広瀬晴子さん 東京工業大学特任教授
第7回 5/10	テーマ： 「男女関係なく、自分が活かせるフィールドを見つけよう」 講師：丸川珠代さん 自由民主党 参議院議員	テーマ： 「たかが外見 されど外見～日本の美意識を世界へ～」 講師：小林照子さん メイクアップアーティスト
第8回 6/14	テーマ： 「女性の活躍が日本の未来を拓く」 講師：古屋範子さん 公明党 衆議院議員	テーマ： 「国際開発舞台における女性の視点」 講師：廣野良吉さん 成蹊大学名誉教授
第9回 7/12	テーマ： 「平和と平等は手を携えてやってくる」 講師：福島みずほさん 社会民主党 参議院議員	テーマ： 「進まない日本の女性差別撤廃」 講師：山下泰子さん 国連NGO国際女性の地位協会会長

70年間戦争をしなかった日本 平和を守り愛する心を大切に!

赤松先生の挨拶
 修了された第一期の皆様、おめでとうございます。
 2015年8月という日に修了されたことは思い出に残るのだと思います。
 70年前の8月、日本は敗戦し戦争が終結しました。以来、70年間、日本は戦争をしない国でした。そのおかげで生活は豊かになり、平和を愛する心も生まれました。私たちは、この平和な日本を守っていかねばなりません。
 この赤松政経塾は、皆さんに政治に関心を持っていただきたい。その第一歩として、まず今の政治がどのようになっているのかわ知っていただきたい。そのよう

な思いから、現職の政治家や経済界の方々を講師に招き、現場の声を伝えてもらいました。この会は、講演のあと、食事をしながら交流をすることが恒例になっています。塾生の皆さんで、政治や経済について話し合っ、日本の進むべき道を考える機会になればこの会もたいしたものだと思います。今日修了した方も、引き続きおいでいただき、語り合うことを続けていっていただければと思います。



▼修了証授与式



7月12日 第一講義

平和と平等は手を携えてやってくる

福島みずほさん(参議院議員)

私は土井たか子さんからの強い
お薦めをいただいたことよって
政治家になりました。

最初に打診されたときは、まだ
子どもが小さかったので辞退しま
したが、2度目のときには、子ど
もも大きくなっていたので受け
する決意をしました。

それまでの私は、毎日をハッ
ピーに生きることが信条で、政治
家になったら「それは無理だな」
と思っていました。ところが政治
家になった今、毎日がとても充実
し、生きがいを感じています。

今、少子化問題、夫婦別姓、労
働問題など様々な委員会の委員を
しており、皿回しのようにいくつ
ものお皿を同時に回している気分

で毎日こつこつしたテーマに取り組
んでいます。現在までの活動で、
DV防止法が成立し、2回改正で
きたことは一つの達成感となりま
した。また悲願だった非嫡出子の
相続差別の撤廃も実現できました。

男性は、力の論理で政治をしよ
うとしますが、女性は車座になっ
て皆を巻き込みながら話を進める
術にたけていると感じます。これ



▲宮崎県生まれ。東京大学法学部卒業後、弁護士として活躍するが、1998年7月に社会党から参議院比例第1位で当選。2001年に社民党幹事長、2003年から2013年まで社民党党首。国会では、環境・人権・男女平等・平和・雇用を5本柱に据え、幅広く活動中。

からの政治は、そういう女性的な
アプローチのほうが求められてい
るのではないかと、実は女性は政治
に向いているのではないかと思っ
ています。女性が政治に加わると

政治の優先順位が変わります。こ
れまで切り捨てられてきたマイノ
リティの問題にスポットが当たり
ます。人口としては男女半々です

が、実質的には女性はものごとを
決定する場面でのマイノリティ
(少数派)といっている。女性で
あるがゆえの、出産、子育て、介
護などの問題、これは私も抱えて

いる問題です。私は、自分に困難
がふりかかればふりかかるとい
うのは政治の種になると思ってい
ます。自分の困りごとを解決する
ことが実は社会をよくすることに
もつながるからです。

政治家は大変ですが、成果を勝
ち取れることもあります。世の中
をよくするために法律を作った
り、様々な提言をしたりすること
もできます。女性がどんどん進出
することで政治は変わっていきま
す。「平和と平等」は手を携えて
やってきます。ぜひ日本の自由
平等、平和を守るため、ともにが
んばりましょう。

7月12日 第二講義

進まない日本の女性差別撤廃

山下泰子さん

(国連NGO国際女性の地位協会会長・認定NPO法人日本ネパール女性教育協会理事長)

今年、女性が参政権を獲得し
てから70年、日本が女性差別撤廃
条約を批准してから30年という記
念すべき年です。

終戦の年の1945年、幣原喜
重郎内閣のときに衆議院議員選挙
法改正によって女性の参政権が実
現しました。翌年には39人の女性
の衆議院議員が生まれました。そ
のうち8人が選挙区でトップ当選
を果たしました。昨年の衆議院議
員選挙では、45人が当選しまし
た。現在475人の議員がいます
から、女性議員の割合は、68年後

もわずか9.5%に過ぎません。
女性差別撤廃条約は、1979
年の国連総会で採択され、日本は
1985年に批准しました。条約
を批准したからには、国としてき
ちんと取り組まなければならぬ
のに、日本では残念ながらもまだあ
まり実施が進んでいません。



▲中央大学法学部法律学科卒・同大学院法学研究科博士課程修了、法学博士。1983年に女性差別撤廃条約に関する論文を発表して以来、30年以上にわたり、本条約の研究・普及活動に精力を傾けてきた第一人者。ネパールの女性の教育普及にも尽力している。

2020年までに各方面で指
導的な地位に占める女性の割合を
30%にするという「202030」
の目標も、未だに10%前後のまま。
国連ではさらに進んで、2020
年に「男女50・50」を目標に掲げ

▶日本で初めて39人の女性議員が誕生し、初登院した日の記念すべき写真を紹介する山下先生。



ていますが、日本の実現とは開くばかりです。

私は、女性差別撤廃をテーマに長く研究を続けてきました。転機となったのは、1985年にナイロビで行われた第3回世界女性会議に参加したことです。このときに、2万人を超える世界中から集まってきた女性たちに出会い、そのパワーに圧倒されました。このパワーで世界を変えられるのではないかと、自分もそれにかけてみようと思心しました。以来、30年になります。

1995年に、第4回世界女性会議が北京で開催されました。このときにジェンダー平等と女性のエンパワーメントの促進に向けて各国が取り組むことを明記した「北京宣言」と具体的な行動指針を示した「北京行動綱領」が採択されました。今年「北京+20」です。私たちは、実行委員会を立ち上げ、普及・啓発に努めています。

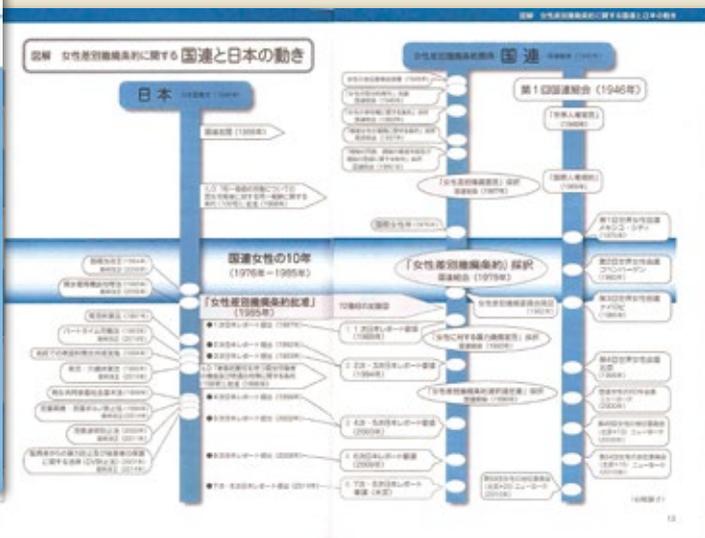
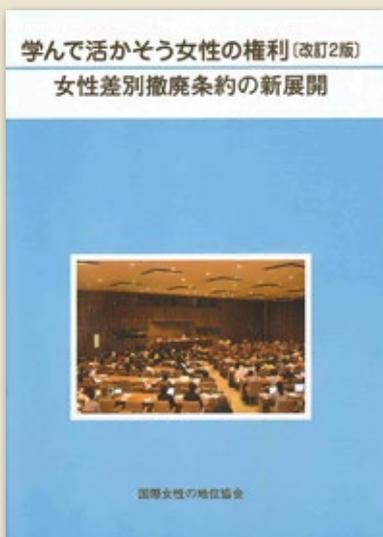
国連は、女性差別撤廃条約を締

結した国に対し、4年ごとの報告書の提出を求めています。日本は、

第1次から第7・8次まで7つの報告書を提出してきました。第6次レポートの総括所見では60項目中の48項目について、早急に対応することを勧告されています。それには、民法改正などの重要な指摘が含まれています。今回、日本女性差別撤廃条約NGOネットワーク(JNNC)では、総括所見の対応状況についての評価をしました。それによると、「国連の勧告に全く対応していないか勧告無視とも思われる」との評価が11項目もありました。これは、日本政府の怠慢と言わざるをえません。

日本のジェンダー・ギャップ指数(世界経済フォーラム)が世界142カ国中104位(2014年)という不名誉な位置から脱出するために、政府には誠実な対応・取り組みをしていってほしいと思います。

女性差別撤廃条約は、世界女性の憲法と言われています。日本の批准30周年にあたり、皆さまに条約を知って、活用していただきたいと思っています。



山下先生が会長を務める「国際女性の地位協会」が発行する、女性差別撤廃条約の基礎知識をやさしく解説する冊子「学んで活かそう女性の権利」(600円)。2014年12月1日発行の最新号では、本文中で紹介された、女性差別撤廃委員会の総括所見に対する国の対応にちつての、日本女性差別撤廃条約NGOネットワーク(JNNC)の評価が掲載されている。

冊子のご希望は、「国際女性の地位協会」事務局まで Fax.03-5905-0365

赤松政経塾 参加者の声



自己プロデュース力の
大切さを
再確認できた

メンタルトレーナー

林智意さん

私の専門はメンタルトレーニングです。特に対応力を高めるためのセルフマネジメントを教えています。講師陣に共通していることは進むべくゴール設定が明確であること。なりたい自分をプロデュースするには、常に現実と向き合える強さとストレスマネジメントが必要となります。この分野の重要性は、まだまだ日本では浸透しておりません。能力のある女性が第一線で活躍するための心のサポートを今後とも担っていきたいと、改めて決意できた1年でした。

政策決定の場に
女性がいることは
重要

英語塾経営

吉田文恵さん



大学で「国際社会とジェンダー」の授業を聴講。様々な国の女性の歴史と地位を調べ、政策決定の場に女性がいることがとても重要であるとわかりました。赤松政経塾の「リーダーを目指す女性を育てる」という目的に大変興味を持ち入塾しました。講座の講師は毎回、第一線で活躍している各界の名士ばかり。その経験と知恵を話していただけることが、貴重な経験となります。また、様々な職業の塾生たちとの出会いと交流も、毎回楽しみにしています。



弱者だからこそ
できることもある
と気づいた

学生

小松恵美さん

福島みずほさんの「政治家は皿回しのようなもの」という言葉に衝撃を受けました。私には到底できませんが、まずは一つのことだけでも極めて、しっかり経験を積もうと思いました。これまで、女性って弱くて嫌だと思っていましたが、弱者の視点があるからこそできることもあるのだと福島さんの話から気づかされました。せっかく選挙権もあるのでちゃんと選挙にも行って、世の中の出来事や政治にも関心を持ち、自分なりの意見を持つようになりたいです。

女性の声を
政治に届ける
道を探りたい

大学勤務、研究員・講師

小川真理子さん



社会人経験を経て大学院でジェンダー研究に従事。大学院博士課程では、DV被害者支援を行う全国の民間シェルターを調査し、民間の立場からの支援の特徴やDV防止法の立法・改正過程に貢献した女性運動の貢献等についてまとめました。（『ドメスティック・バイオレンスと民間シェルター』として出版）。女性の声を政治に届け反映させる道を探りたくて赤松政経塾に入塾。女性や子どもが生きやすい社会を目指して研究を進めていきたいと思っています。